

トラックさんへの極秘情報のサービスです。

・福島敏夫さんは、約 200 年前の高名な日本の浮世絵画家で、江戸時代では珍しく、90 歳近く生き抜いて良い作品をたくさん残したという葛飾北斎さんの生き方にあこがれ、それを模範としたやり方をしているようです。特に、北斎さんが、70 歳過ぎてから、「おれは、いまだに自分がやろうとしたことの半分も実現していない」と発憤し、75 歳で、世界に冠たる「富岳三十六景」という浮世絵を完成したという逸話に感じ入っているようです。

福島敏夫さんは、65 歳の定年退職後、「福島建築環境材料研究所 2」という WEB 上の研究所のホームページを開設し、言論の自由と情報発信と啓蒙による世界貢献に努める傍ら、約 10 年間、トロイカの 3 頭立て馬車方式で、光と水と二酸化炭素に関連した劣化現象の解析と可視化と寿命予測の研究発表を続けているようです（高分子材料の光劣化、水蒸気の非定常移動過程、コンクリートの中酸化など）。

（最近では、3 頭増えて、6 頭立て馬車になったようです（環境調和型材料設計・生涯設計、外断熱材料システムおよび構法の性能評価・予測、繊維補強コンクリートなどの新規建築・土木用複合材料・部材に

関するものが増えた)。

4頭立て馬車は、英語では、coach and four、6頭立て馬車は、英語だと、coach and six というようです。カタカナで、4頭立て馬車、6頭立て馬車方式は、トロイカでなく、なんというべきか？ “多頭流” でいいのかな？)。

・富士山等の山、川、海の絶景にもあこがれているようですね。また、葛飾北斎さんの「富岳三十六景」という一連の連作や、富岳という言葉の連想によるスーパーコンピュータに関する話題などに対する感じ方もあるようですね。日本の法隆寺や日光東照宮、フランスのモン・サンミッシェルやルーブル博物館など、世界遺産になっているような人類の遺産へのあこがれもあるようですね。

・「睡蓮」の花の絵で有名なモネやルノワールさんなどのフランスの印象派画家や「ひまわり」の花の絵で有名なゴッホやゴーギャンさんなどの後期印象派の画家達の絵画へのあこがれもあるようですね。それに関連して、絵画、彫刻、陶芸、建築など、いろいろな「美の巨人達」への憧れもあるようです。

以上です。